



World Prayer and Share Letter 世界のための祈り

とりなし手の皆様へ

ダイアン・グリコ師



アルカイダ、イスラム教徒にイエス・キリストの福音を伝える、指導的アラブ人伝道者を狙う。(1)

■アラビア語のある新聞は、「イスラム社会の第一の敵」として、「ザカリア・ポトロス神父」の名前を載せました。彼の敵はただ彼を黙らせたいだけでなく、暗殺することを願っています。(彼の死に対する報酬は6,000万ドル(約62億円)にまで達するとCNNが報道しました。)

なぜイスラム過激派は、このエジプト出身の70代のコプト教会の神父に激怒しているのでしょうか?

ポトロス氏は、自国に福音を入れさせまいとするイスラム政府の必死の努力をよそに、最先端の人工衛星テクノロジーを利用することにより、マホメットは預言者であり、コーランは神の言葉であるという主張に対して真っ向から挑戦しています。彼は大胆にも、イスラムの間違いを正すだけでなく、なぜイエス様がイスラム教徒を愛しておられるか、そして更に、彼らが何者で何をしてきたかではなく、今、なぜイエス様が彼らを赦し、神の家族に招き入れておられるのかを、聖書を通して彼らに熱く語っています。

「アルハヤット」というアラビア語の衛星放送(ライブ・テレビ)で週に4回、再放送されているポトロス氏の90分番組は、イスラム世界で「必見」となっています。「アル・ハヤット」は、北アフリカ、中東、中央アジア、北米、ヨーロッパ、オーストラリアやニュージーランド在住の約5,000万人のイスラム教徒が見ています。その結果、1カ月あたり少なくとも1,000人のイスラム教徒が、同氏の電話カウンセラーと共にイエス様を受け入れる祈りをしています。それには回線が混んでいてカウンセラーと通話できない多くの人々の数は含まれていません。

ポトロス氏のインスピレーションはヨハネ3章16節から来ています。彼は、「誰でも」イエス・キリストが主であることを信じるなら、ユダヤ人であってもイスラム教徒であっても永遠の命を受けると信じています。ポトロス氏はすべてのイスラム教徒が過激派だとは信じておらず、むしろすべてのイスラム教徒は霊的に迷っていると信じており、イスラム教徒を創造し愛しておられる神様の赦しと和解の道を、彼らが見出す手助けをしたいと切実に願っています。

(編集者注: 現在、ザカリア・ポトロス神父は安全な非公開の場所にいます。主が御国に集めておられるイスラムの魂のすばらしい収穫のゆえに彼と共に喜びましょう。そして、ポトロス氏の身の安全と世界中のイスラム教徒にイエス・キリストの福音を伝えるために必要なものがすべて備えられるようお祈りください!)

米副大統領候補(アラスカ知事、サラ・ペイリン氏)は、「中絶反対者」であり、イスラエルの保全を支持。

■米国の社会的・宗教的保守派の人々は、ダウン症の赤ちゃんを世の中に歓迎したことに対してサラ・ペイリン氏を深く賞賛し、妊娠中の十代の娘に関して「生存権」に対する献身を拍手喝采しました。ジョン・J・ピットニーJr.氏はナショナル・レビュー・オンラインでこう書きました。「何人かの政治家は真の献身なしに中絶反対の立場をとってきましたが彼女は違っています。

彼女は中絶反対の歩みをしてきました。」(2)

サラ・ペイリンの選挙運動顧問であるT・エスキュー氏は彼女について次のように述べました。「彼女は核兵器を所有しているイランに対するイスラエルの恐怖を理解し、イスラエルの有力な支持者として自分を説明するでしょう。」ペイリン知事はイスラエル国家の保全は聖書的命命であると教えているプロテスタント系福音派の教会に通っています。(3)

(編集者注) 1. 聖書の神は親イスラエルです。神様はイスラエルの「父」として選ばれたアブラハムに言われました。「わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」(創世記12:2-3) 神様はイエス様を信じるすべての人に、アブラハムの祝福を約束されました。イエス様は私達がこれらの祝福を受けることができるように、私達の呪いとなられました。

2. 聖書の神は命を守るお方です。出エジプト記20章13節で、神様は「殺してはならない。」と言われました。中絶は殺人です。

11月4日のアメリカ大統領選のためにお祈りください。テネシー州出身の元共和党上院議員フレッド・トンソン氏は、「私たちが最初にアメリカ国旗に忠誠を誓って以来、今ほど大統領の品性や判断力、指導力が重要である時はありません。」と言って、福音派アメリカの心の内を表しました。(4)

インドのデリーで、9歳の女の子がイエス様に癒しを叫び求める。(5)

■ヒンズー教徒の11歳の少女レアは、15日以上続いた高熱で右足が無感覚になって、とても弱り、きちんと歩くことができませんでした。苦痛な検査の後、医師はレアの母親マルタに、彼女を助けるためにできることはもう何もないと告げました。しかし、レアが叔母を訪問した時、彼女はイエス様の御名で癒される人々が映っているCBNの番組を見ました。彼女は母親に「もうこれ以上お医者さんに行きたくないわ。私を教会に連れて行ってちょうだい。私を癒してくださるようにとイエス様にお願いしたいの。」と言いました。彼らが教会へ行ったとき、母親のマルタは15日以内にレアを癒してくださいとイエス様に祈り求めました。なぜなら、15日後にはレアの筋肉の組織検査が予定されていたからです。5日もしない内に、マルタは驚きました!レアが普通に歩いていたのです。そして医師は、「あなたの娘さんはどこも悪いところはありませんよ!」と言いました。この一家はヒンズー教の偶像をすべて捨て、彼らの人生をキリストにささげました!

(編集者注) 世界中に主の癒しの愛と憐れみが注がれているゆえに、イエス様を賛美し続けてください。また、インドのオリッサ州の信者のためにもぜひお祈りください。オリッサ州からキリスト教を「浄化」しようとする過激派のヒンズー教徒によって彼らは殺され、鞭打たれ、家や教会が焼かれています。(6)

脚注(1)ジョエル・ローゼンバーク(2008年9月9日付) novembercommunications@ixs1.net (2) www.nationalreview.com (3)ワシントン・タイムズ(2008年9月8日付17頁)ラルフ・Z・ハロウ記者(4)同誌15頁(A P通信社)(5)クリスチャン・ワールド・ニュース(2008年9月12日付-(CBN.comメディア・センター)) (6) 殉教者の声- Persecution.com re: Orissa, India